

経済・金融 フラッシュ

台湾 2011年 10-12月期GDP: 前年同期比+1.90% ～外需・内需ともに低迷、成長は大幅鈍化

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

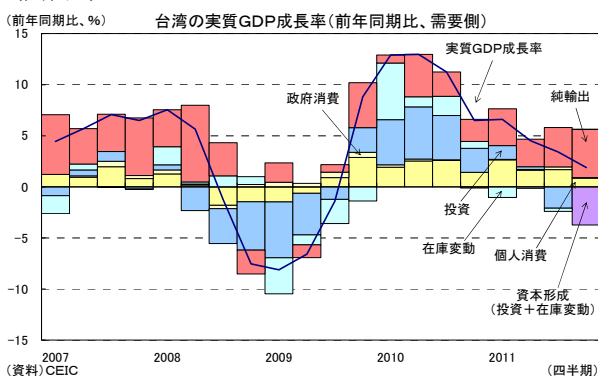
1. 現状: 経済成長は大幅に鈍化

台湾の行政院主計処（DG B A S）は1月31日、10-12月期の実質域内総生産（GDP）の速報値を公表した。成長率は前年同期比（原系列）で1.90%の増加となり、11月時点で同機関が予測していた前年同期比3.69%を大幅に下回った。前期比年率（季節調整済）では▲0.98%となり7-9月期の同▲0.83%に続き2期連続でのマイナス成長となった。また、2011年通年の成長率は前年比4.03%の増加となり、2010年の同10.72%から大幅に鈍化した。

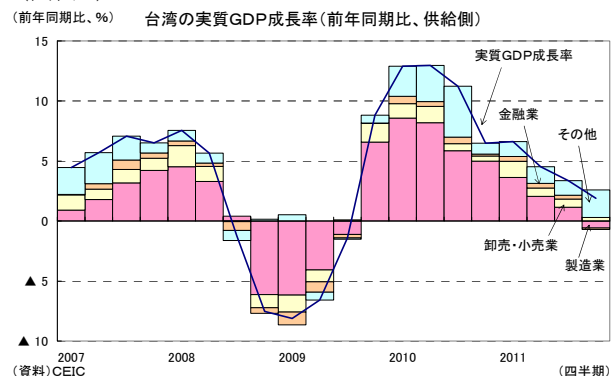
実質GDP成長率を需要項目別に見ると（図表1）、前期に続き内需と外需が共に減速しているが、今期は、前期と比較して成長の減速がより一層深刻になっている。中でも資本形成（投資+在庫変動）は前年同期比▲19.24%となり（前期は同▲11.85%）、大幅なマイナス成長を記録した。個人消費についても前期の前年同期比+3.14%から今期は同+1.66%と減速が鮮明になっている。外需に関しては、輸出が前年同期比で+0.43%とかなりプラスを維持したにとどまっておらず、やはり前期（同+2.09%）から減速している。なお、輸入が前年同期比▲7.59%と大きく落ち込んだため、純輸出では成長率へ寄与度が4.71%ポイントと大きくなったが、輸入の減少は経済活動の低迷によるものであり、台湾の景気後退を表していると言判断できる。

供給側から見ても台湾の低迷ぶりが良く表れている（図表2）。今まで成長を牽引してきた製造業が前年同期比▲1.78%とマイナス成長に転じている。その他、サービス業のうち金融業や不動産業もマイナス成長に転じ成長の抑制要因になっている。サービス業のうち、卸・小売業は前年同期比+1.68%とプラス成長を保っているが、7-9月期の前年同期比+4.32%と比較するとその伸び率は半減しており、景気後退の影響は幅広い産業に拡散していると言える。

（図表1）



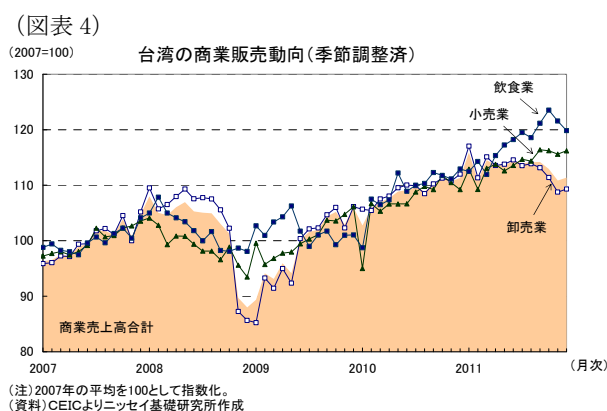
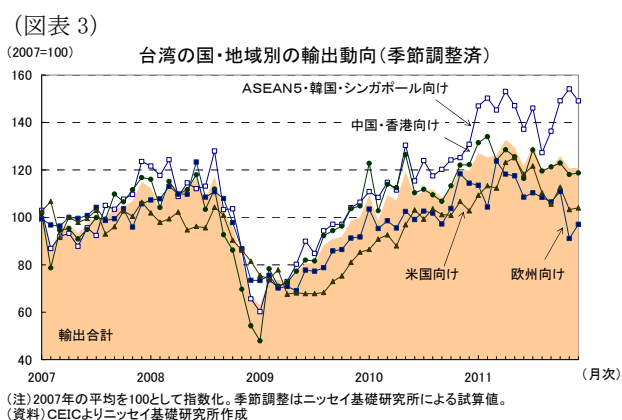
（図表2）



2. 先行き: 内需・外需とも活性化の兆しはなく、伸び悩みが続く

外需主導で成長している台湾にとって、ここ数カ月の輸出環境は非常に苦しいものとなっている(図表3)。台湾では、主要産業である電子機器業界の不調が深刻化しており、今まで低迷していた米国向け、欧州向けの輸出に加えて、中国・香港向けの輸出も鈍化している。これらの国・地域への輸出は台湾の貿易シェアの6割以上を占めているため¹、ASEANや韓国・シンガポールなどへの輸出は伸びているものの、外需の下支えとしては力不足である。

外需低迷が内需に波及してきたことは、台湾の商業販売統計を見ても明らかである(図表4)。外需の影響を受けやすい卸売業が落ち込んでいることに加え、小売業も売上が頭打ちとなっている。加えて、今まで順調に伸びていた飲食業も最近では成長が鈍化している。台湾では外需の低迷により企業収益が落ち込んでおり、消費者の所得も上がらないため、こうした内需の減速傾向は、今後も続くものと思われる。



3. 経済政策は、2期目の馬英九政権にとって大きな課題

外需、内需の低迷は、1月14日に行われた台湾総統選で再選を果たした馬政権にとっての課題でもある。総統選では、国民党の馬英九氏が事前予想を上回る票を獲得し、民進党候補である蔡英文氏を破った。民進党の基本理念である「(中国からの)台湾独立」は支持されず、国民党の目指す「安定した中台関係」が支持された。中でも(1期目の)馬政権で実施された中国とのFTAに相当するECFA(経済協力枠組協議)の発効は高く評価されたと言える。台湾にとって中国は主要な貿易相手国であるため、台湾が中国からの独立主権を主張し、中台関係が悪化すれば、経済成長を大きく減速させかねない懸念されたことが民進党の敗因と言えるだろう。国民党が支持されたということは、有権者が経済成長を重視した結果であるとも言える。

また、台湾総統選と同時に実施された国会(立法院)選挙でも、国民党は安定多数を確保した²。したがって、馬政権は安定的に政治を運営できる基盤を得たことになる。しかし、外需低迷が深刻化し、今までの輸出主導の成長が見込めないなかで、効果的な経済政策を実施することは難しい状況でもある。今後、対中政策や欧州危機への対応策の実施に取り組む馬政権は、経済成長を期待する民意に対してどのような政策を打ち出していくのか、その手腕が試されていると言えるだろう。

¹ 具体的な輸出シェアは、中国：28.0%、香港：13.8%、米国：11.5%、欧州：10.7%である。

² ただし、113議席のうち、国民党が獲得した議席は72から64に減少した。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。